

(別紙4-1)(ユニット2)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202824		
法人名	(有)アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホームポプラ		
所在地	札幌市北区新川3条4丁目8-40		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202824-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階		
訪問調査日	平成	28年	2月 19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ポプラでは看取りまで支援させて頂いており、看取りをするに当たってやはり大切なことは、家族さんとの信頼関係が築けていること、利用者さんが安心して最期まで穏やかにご本人のペースで過ごせること。医療との連携がしっかりとれていることがご本人、ご家族さんはとても心強く、安心して両親を預けていられます。と、ご家族さんから多くの声をお聞かせ下さいます。ポプラでは小さな変化をキャッチし、迅速に対応を行っています。利用者様と日々関わりを多く持ち、個々に合わせたりハビリや支援を提供しています。1階ユニットと2階ユニットを職員、利用者様共々行き来し、会話が弾み毎日楽しく過ごしています。地域との関わりも継続出来ており、夏は近所の方が自分の庭で採れた野菜等を届けて下さったり、散歩をしていると声を掛けて下さります。2か月に1回の運営推進会議では町内の方は必ず参加して下さい、ご家族の方も参加して下さい、様々な情報交換がなされています。ポプラの職員が技術・知識の向上を図る為に、会社内で勉強会をしたり、時には実践を踏まえた勉強会を行っています。外部研修への参加も行い職員全員で学ぶ機会を作り、日々のケアの質の向上を図る為努めております。利用者様、ご家族様、職員皆が笑顔で生活、仕事出来る職場作り、環境作りに努めおり、日々笑顔でいることを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

有限会

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議等でポプラの理念を施設長始め言葉にし振り返ることで職員の意思の統一を図る他理念をもとに現場での改善点等を全員で話し合い良い雰囲気作りに努めている。理念に沿ったケアが提供出来るよう努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内・近隣の方との交流は図れている他2か月に1回の運営推進会議の際には町内会の方が出席して下さり町内の近況報告等して下さります		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時認知症とは何か、ご家族交えて事例を発表している他、ポプラでの利用者様への対応等を伝達している		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な情報交換をしている中で外部の方からの率直な意見を参考にし、実践に繋げることが出来ている		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ポプラ内での困難事例等が出た場合は市に相談しアドバイスを頂いている他運営推進会議の際も事例発表し町内の方・地域包括の方からもアドバイス頂き実践に生かしている		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束について正しく理解出来ている。会議時・カンファレンスの際身体拘束についての話し合いを行い、やむを得ず身体拘束をしている利用者様に関しての改善検討会を必ず開き身体拘束をしないケアが出来るよう取り組んでいる		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議の際に虐待についての勉強会を定期的に行っている他TVや新聞等で取り上げられている虐待事件についてのディスカッションを行い、虐待が起きないように環境を整えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は成年後見制度について理解しており、ボブラの利用者様の中にも何名か後見人の利用をされている方がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族・利用者様に不安の無いよう十分な説明を行う他不安や疑問点等解決し納得した上での契約を交わしている他契約後も不安や疑問等がないか確認等を行い安心して施設利用して頂く為に努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会時等で直接要望を聞くことが出来たり、利用者様の要望は日々その都度聞き、対応に努めている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者・施設長は日頃より職員とのコミュニケーションを図る上で、職員の意見を聞き運営に反映させるよう職員との関係性を密に出来るよう努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状態や能力に関して代表者に伝達し、代表は個々の職員の能力を把握出来ている。定期的に職員の話聞き、働きやすい環境を作っている職員の希望を取り入れ、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人一人の能力を把握しており、法人内外の研修へ参加させ、他職種の方とも交流を図り、情報交換を行い交流を図っている。職場内でも勉強会を定期的に行い、サービスの質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	1階ユニットと2階ユニットの行き来が頻繁に出来ている。職員同士の交流も図れている。双方の情報交換を行いながら、ケアするに当たり改善点やアドバイスなど行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に本人との面談を行い、本人が望む生活を継続出来るよう不安の傾聴や困っていることなどを聞き入れた上で、本人が安心して過ごせる環境作りに努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面談を行いご家族の意向や要望を聞き、ご家族との関係性を密に出来るよう細かく連絡をしている他、面会時には状況説明をする等し、安心してお母様・お父様を安心してお預けして頂けるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始の段階でご家族や利用者様が必要とされている支援をに極め、他のサービス利用も受けれるよう臨機応変に対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と楽しく一日一日過ごせるよう一緒に作業を行っていたり、レクリエーションを実施したり、出来る部分はしてもらったり、双方感謝の言葉が交わせる関係性を構築出来ている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様第一に考え、何かあればご家族に相談しアドバイスを頂いたり、施設が一方的に考えケアに当たるのではなく、ご家族も含めご本人にとって一番良い方法を考え対応している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしていた馴染みの人や場所が途切れないよう、関係性が継続出来るよう支援に努めている。自宅に帰ったり、自宅近所の友人に会いに行ったりと馴染みの人との交流が継続出来ている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者様の性格を把握しており、利用者様同士気の合う方同士一緒に楽しくおしゃべりしたり出来ている。孤立する利用者様が出ないよう職員が間に入り会話をつないだりして、利用者様同士が関わりを持てるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族との関係性が途切れないよう、お手紙のやり取りや年賀状のやり取りを行っている。自宅訪問に行きお話しする等している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用前の生活スタイルが継続出来、本人の意向を取り入れたケアが提供できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様から昔の話を聞いたり、ご家族から今までの暮らし方を聞き、環境が大きく変化してしまわないよう、支援に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様一人一人の心身の状態を把握しており、小さな変化にも対応し利用者様が現状の状態を維持出来るよう支援に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやサービス担当者会議等で課題やケアの見直し等話し合う機会は多く、利用者様の現状に即した介護計画を作成している。変化がある際は迅速に介護計画の変更を行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で業務日誌にて情報共有している他申し送りの際に情報の交換を図り、気づきや工夫等臨機応変に対応出来ている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに柔軟に対応し、多機能のサービスのご提案・提供が出来るよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏は近くのお店に買い物に一緒に出掛けたり、近所の公園に散歩に行く等地域資源を把握し、活用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択はご家族、利用者様の意思を尊重し、各利用者様にのりしたい量の		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化に迅速に気づき、医師・看護師へ報告し、必要に応じ処置・投薬して頂いている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は早期退院出来るよう情報交換を行う他定期的に状態を見に行き、関係性が途切れないよう関係作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時にお話する他、その状況が来た時にはボプラでの出来る範囲の支援を説明する、医療連携体制を具体的に説明をし、安心して終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変時の対応を把握しており、早期対応出来るよう会議等でも知識を身につけ、迅速な対応が出来るよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時近隣の方も交えて訓練を行う他、職員は緊急災害時の手順を把握する為年2回の避難訓練にて実践力を身につけている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になって何がなんだかわからなくなったとしても、一人の人として接し、その人の人格を損ねてしまわないよう、定期的に認知症についての勉強会を実施し、日頃の声掛けや対応を見直し話し合いを行い日々のケアのあたっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定・自己選択出来るようセッティングし、極力自己決定出来るよう働きかけている。自己選択出来る楽しみを最期まで提供出来る働きかけをしていきたいと思います		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様一人一人ペースが違い、一人一人のペースに合わせた支援をしている。起床時間や就寝時間、食事時間など臨機応変に対応出来るよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々清潔と身だしなみに注意を配り、その人らしさの身だしなみが継続出来るよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんで頂く為片づけを共に行ったり、好きな食べ物を提供出来るよう一人一人好きな食べ物を把握し提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や一人一人の心身の状態に応じ、その時その時に応じ様々な工夫をし、一日を通して必要な量を確保出来るよう日々努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後口腔ケアの実施。定期健診にて歯科往診を受診されている。利用者様のニーズに合わせて口腔ケアの用具を用意し使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	最期まで布パンツが使用出来るように排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者様には飲み物の工夫をする他適度なマッサージ、運動を行い個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	時間は決められているが、入りたくない人がいたら日にちをずらしたり、今日入りたいという要望は聞いて気持ちよく入浴出来るよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	分割睡眠を摂る方や、寝る時のこだわり等は利用者様に合わせ対応している。安眠効果に夕方足浴を実施し体を温めリラックス出来るよう日々実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの使用している薬を把握するよう努めている他誰が何を飲んでいるかすぐに確認出来るように目の届く場所にお薬表を添付している。副作用等は調剤薬局の方より指導を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味を把握し、継続してやりたいことがあれば継続して頂けるよう支援している。趣味や出来ることが変化している際は色々なツールを提供し興味が湧くものがあれば提供し気分の転換が図れるよう努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で買い物に行きたい等の要望がある時は時間を作り同行し買い物が出来るような環境を作っている。ご家族で外出されることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力やニーズに合わせ本人がお金を持っていることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話が出来るよう対応している。遠方にいるご家族と電話で話されることもある		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の装飾は行事時、季節ごとに飾りつけを替え、生活感や季節感を感じられるよう工夫している。共用空間は不快感を感じないようその時時に応じ照明をつけたり、芳香剤を使用する等居心地よく過ごせるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に居室に戻りラジオを聴いたり、居室でテレビを見たり、横になっていたり自由に過ごしている。自分で動けない方に関しては心身の状態に合わせ声掛けをしその都度対応してる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には必ずご本人が使われていた物、大切にしている物を持参して頂くようお話しし、利用者様が安心して過ごせるよう環境整備に努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の有する力を把握し、危険がないよう環境整備に努めている他自立した生活が少しでも長く継続出来るよう工夫をに対応している		